成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより164号
R2.　1．14

二十億光年の孤独

谷川俊太郎

人類は小さな球の上で
眠り起きそして働き
ときどき火星に仲間を欲しがったりする

火星人は小さな球の上で
何をしてるか　僕は知らない
（或はネリリし　キルルし　ハララしているか）
しかしときどき地球に仲間を欲しがったりする
それはまったくたしかなことだ

万有引力とは
ひき合う孤独の力である
宇宙はひずんでいる
それ故みんなはもとめ合う

宇宙はどんどん膨んでゆく
それ故みんなは不安である

二十億光年の孤独に
僕は思わずくしゃみをした

この時代（1950年）はまだ、宇宙の大きさが137億光年ではなくて、20億光年だったんです。僕はそんなに天文学に興味があったわけではないんだけど、その程度の知識はあって。それから、もしかすると火星に知的生物がいるのかもしれないという、ちょっと面白い時代だったんです。そういうことを踏まえて書いた詩です。（本人談）

凧「タコ」は昔、「イカ」と呼ばれていた？

「校長先生、先生が作られたあの凧は、昔はなんて呼ばれていたか知っていますか？」「いや、知りません。」：：S先生の検証授業を参観されている名護市教育研究所の所長・S・K氏から問われた私は、「調べておきます。」と返答して、お茶の準備をお願いして校長室に戻ると、「いかと言うらしいですよ。」「えっー」「タコがイカですか？」：：で、早速ネットで調べてみました。するとどうやら本当らしい。NHKの「チコちゃんに叱られる」で1月3日に放送されていたのだ。他のサイトで調べてみても、同じような見解でした。

法政大学の長沢利明氏によると、凧（たこ）の起源は中国といわれており最初は軍事目的で作られたそうです。これは戦の時に遠くの味方に合図を送る目的で使用され、敵に怪しまれないように野鳥に似せたデザインになっていたようです。

その後、平安時代に日本に伝わった凧は、病気などが風に乗って来るのを追っ払う厄除けの道具として、全国に様々な形で広まっていきました。

江戸では空中でバランスをとるために長い紙の尻尾や糸がつけられ、ひらひらした足のように見えたことから、「イカ」と呼ばれるようになったとのこと。

この「イカ」が庶民の間で大ブレイクして、「いかのぼり」として発展。高さなどを相手と競い合い、白熱する余りに喧嘩になるなど、社会問題にまでなったそうです。さらに追い打ちをかけるように、「火のついたいかのぼりが江戸城に落下する」という大事件が発生。江戸幕府はテロ攻撃と判断して「いかのぼり禁止令」を発動。

これに落胆した江戸の町民たちは、知恵を絞って、「上がっているのは、いかではなく、たこのぼりをしている」として、へ理屈で対抗した。最初は大目に見ていた役人だが、「いかのぼり」から「たこのぼり」に変わっても喧嘩沙汰や死傷者の発生は変わらず起き、結局、「たこのぼり禁止令」を改めて発動。しかし、庶民は無視して「たこのぼり」を続けたという。面白い記事でした。

結論、
『凧は昔は「イカ」と呼ばれていた』は、確かでした。

チコちゃんに、「ボーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られそうだ。タコだけに、緊張してあがってしまいました。

NHKチコちゃんに叱られる　より